

## 第1学年 道徳学習指導案

## 1 総合単元名 ところをつないで

## 2 総合単元設定の理由

## (1) 総合単元について

「小学校には、どんな楽しいことが待っているのかな。」「友達はあるかな。」学校という全く新しい社会での生活への期待と不安を胸に入学してきた子どもたち。そんな子どもたち一人一人に、学校生活に適應させていくとともに、学校は安心して自分の思いを表現でき、友達と仲良く活動できる楽しい居場所であるとの思いをもたせたいと考え、スタートした。

人は、様々な思いや願いをもち生活している。そして、その思いを周囲の人と分かち合い、認め合い、心の交流をする中で人間関係を築いていく。しかし、現代の子どもたちは、少子化・核家族化などの生活条件の変化から、異年齢の友達や地域の人たちとかかわりをもつことが少なくなり、自らを律して行動したり、相手を思いやって行動したりする体験の場が少なくなってきた。そのような状況にある子どもたちだからこそ、低学年のうちから、人とかかわる上で大切なことは何なのか、友達や回りの人と仲良く生活するためにはどうすればよいのかを、主体的に考えさせることは大切なことである。1年生の保護者も、「うそをついたりごまかしをしたりしないで、友達と仲良く助け合い、明るく素直に伸び伸び生活して欲しい」という願いをもち、子どもたちの心の成長を支えている。

(アンケート「子どもにどのような道徳性を身に付けさせたいか」より)

本校の1年生は、明るく活動的な子どもたちが多く、進んで友達とかかわりをもとうとする様子も見られる。帰りの会でも、「〇〇さんと初めて遊んで楽しかったよ。」「鉄棒を教えてもらってうれしかったよ。」「転んだとき、保健室に連れて行ってくれてありがとう。」など、楽しかったことやうれしかったことを紹介し合っている。また、友達に優しくしたりされたりする中で、素直な優しさで人に親切にしようとする気持ちも育ってきている。しかし、一方では、自分の都合や一時的な感情で行動し人に迷惑をかけたり、相手の気持ちを考えず悲しい思いをさせてしまう姿も見られる。

そこで、学校生活にも慣れ、徐々に社会生活上のルールを理解しながら様々なかかわりを広げていくこの時期に、思いやりの心で回りの人に温かく接し、お互いに認め合いながら、友達と助け合って生活することのできる子どもたちに育ってほしいと願い、本総合単元「ところをつないで」を設定した。

## (2) 単元構成について

1年生では、子どもたちがよりよい人間関係を築きながら楽しい学校生活を送れるよう、「素直な心で、友達と仲良く助け合って生活する」「自他の生命を大切にし、動植物にも優しい心で接する」を学年の重点目標に設定し、取り組んでいる。

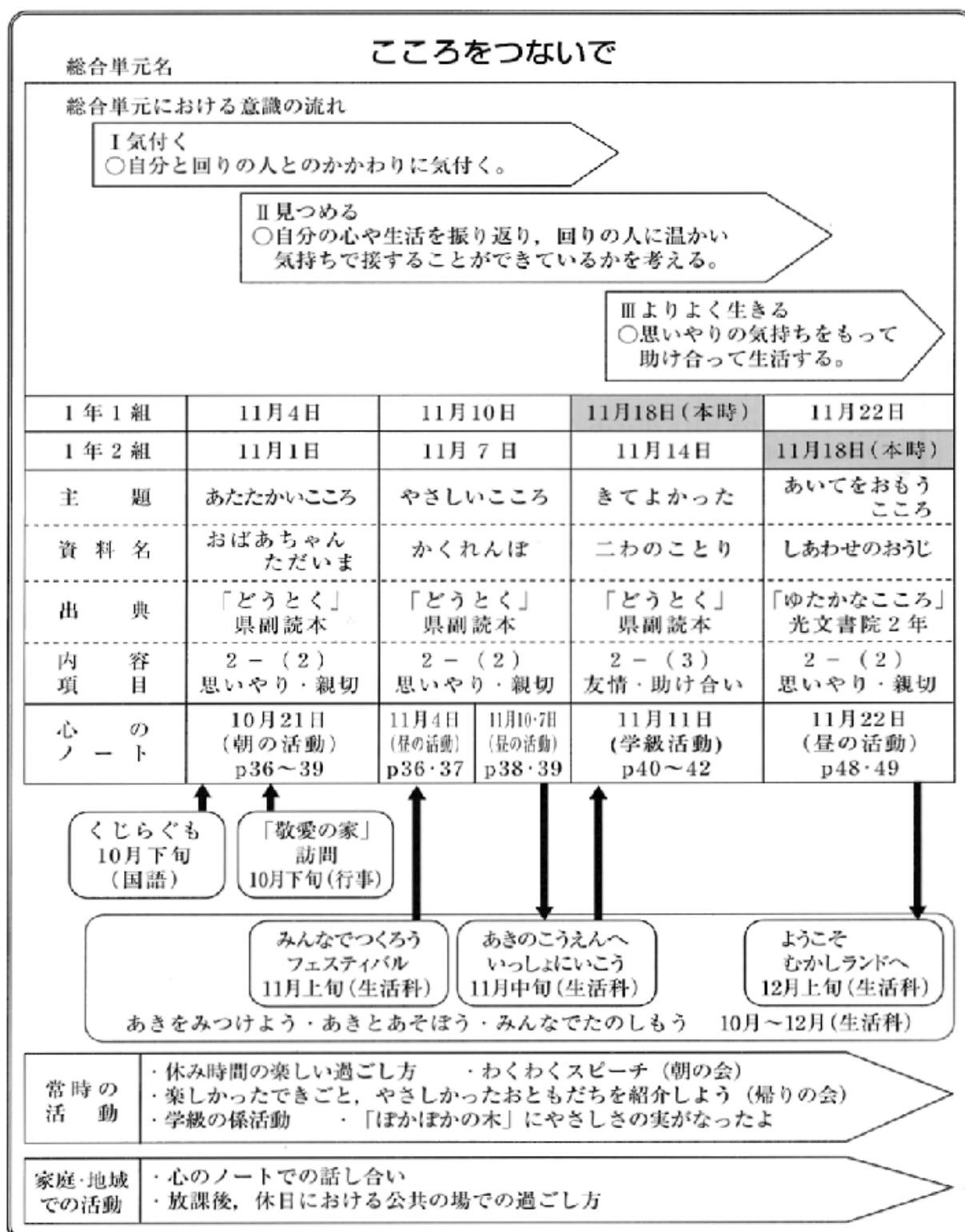
1学期の総合単元「すてきなじぶんに」では、わがままをしないで、節度ある生活をする自分が自身を大切にすることであり、同時に、回りの人も大切にして円滑な人間関係を築いていくことに気付くことができた。2学期の総合単元「ところをつないで」では、様々な人々とのふれあいを通して、人に親切にしたり友達と力を合わせて活動したりする喜びを味わわせ、回りの人と温かい人間関係を築こうとする態度を養う。3学期の総合単元「いのちきらきら」では、自分の成長を振り返ったり家族の愛情にふれたりしながら、感謝の心を育てるとともに、かけがえのない命の大切さについての理解を深め、生きているものすべての生命を大切にしようとする態度を養いたい。

なお、本総合単元では、生活科における幼稚園児や2年生との交流、高齢者介護施設の訪問、地域の方との昔遊びによるふれあいなどの体験活動を道徳の時間に生かして、自分たちの中に育った思いやりの心や自分自身のよさに気付かせていきたい。また、常時活動「ぼかぼかの木にやさしさの実をならそう」では、友達や回りの人の温かい心に気付かせ、学級の人間関係をより深めさせたい。そして、子どもたち一人一人によりよく生きたいという願いと、自分にできる「人を思いやるやさしい心」の実践への意欲をもたせたい。

### 3 総合単元の目標

身近にいる人々に温かい心で接し、思いやりの気持ちをもって、友達と仲よく助け合って生活していこうとする態度を養う。

### 4 学習計画



子どもの意識・実践の様子・評価

—— 道徳の時間      ~~~~~ 心のノート  
 —— 教科等      ..... 当時      —— 体験活動      ○めあて ●評価

	子どもの意識	学校・家庭・地域で生かす
I 気 付 く	<p>心のノート（朝の活動） 10月21日                      「あたたかいところをとどけよう」 P36~39                      ○敬愛の家のお年寄りに温かい心を届けよう。                      ・お年寄りにはどんなことをすると喜んでいただけるかな。                      ・敬愛の家ではくたちには何ができるかな。                      ・おじいちゃん、おばあちゃんと仲よくなりたいな。                      ・お年寄りにやさしくしていきたいな。                      ●お年寄りに温かい心で接していこうとする気持ちをもつことができたか。</p>	<p>「くじらぐも」（国語） 10月下旬                      ○雲の上の様子を、想像を広げながら読んだり、雲と話したことを考えて書いたりする。                      ・みんなでくじらぐもに乗ろう。                      ・みんなで空の旅に出発だ。                      ・雲の上は気持ちよかったね。                      ・また、遊びに来てね。                      ・ありがとう、くじらぐもさん。                      ・みんなで声をそろえて音読したり劇をしたりすると楽しいな。                      ●想像を広げながら読み進めるなかで、友達と活動することや学び合う楽しさを感じることができたか。</p>
	<p>資料名「おばあちゃんただいま」（道徳） 11月4日・1日                      ○お年寄りに温かい心で接し、親切にしていこうとする気持ちをもとう。                      ・毎日おばあちゃんの家へ行ってやさしいな。                      ・おばあちゃんもうれしそうだ。                      ・ほくもおじいちゃんに親切にできたとき、喜んでくれてうれしかったよ。                      ・親切にすると自分も気持ちがいいね。                      ・これから、お年寄りに親切にしていきたいな。                      ●親切にすることは、相手も自分も気持ちよくなることに気づき、お年寄りに親切にしていこうという意欲をもつことができたか。</p>	<p>「敬愛の家」訪問（行事） 10月下旬                      ○おじいちゃん、おばあちゃんたちと楽しく過ごそう。                      ・どんなことをすれば喜んでくれるかな。                      ・歌や踊りを見て楽しんでね。                      ・肩をもみながらお話したいな。                      ・とても喜んでくれて、私たちもうれしかったよ。                      ・今度は近所のおじいちゃんともお話してみよう。                      ●お年寄りに温かい気持ちで接することができたか。</p>
II 見 つ め る	<p>心のノート（昼の活動） 11月4日                      「あたたかいところをとどけよう」 P36・37                      ○幼稚園のお友達や小さい子に温かい心を届けよう。                      ・小さい子にはどんなことをすればいいのかな。                      ・敬愛の家でお年寄りにやさしくできたみたいに、小さい子にもやさしく親切にしたいな。                      ・一緒に仲よく遊びたいな。                      ・幼稚園の子と手をつないで行こう。                      ●小さい子に温かい心で接していこうとする気持ちをもつことができたか。</p>	
	<p>資料名「かくれんぼ」（道徳） 11月10日・7日                      ○身近な小さい子に、優しく親切にしていこうとする気持ちをもとう。                      ・わたしがまりこさんだったとしても迷うだろう。                      ・かくれんぼをやめて小さい子を選んでいったのはえらいな。                      ・相手のことを思いやるのは大切なことなんだね。                      ・親切にすると自分もいい気持ちになるね。                      ・ほくも小さい子が困っていたら声をかけよう。                      ●思いやりの心もち、優しくすることの大切さに気付くことができたか。</p>	<p>「あきをみつけよう」                      「あきとあそぼう」（生活科）                      ○秋の自然とかかわり、体全体で秋を実感しながら、友達や身近な人などと一緒に様々な遊びを工夫し、楽しく遊ぶことができる。</p>
	<p>心のノート（昼の活動） 11月10日・7日                      「あたたかいところをとどけよう」 P38・39                      ○小さい子やお年寄りに、自分ができることは何かを考えよう。                      ・自分にできることは何かな。                      ・幼稚園の子と公園に行くときは仲よく一緒に遊びたいな。</p>	<p>「みんなでつくりようフェスティバル」（生活科） 11月上旬                      ○遊び方やルールを工夫して、自分だけでなく2年生や友達と楽しく遊ぶことができる。                      ・一緒に、まとあてをして遊ぼう。                      ・一人にいる友達を誘おう。                      ・順番に交代でゲームをしよう。                      ・2年生のお兄さん、お姉さんたちがやさしく教えてくれたね。                      ・みんなが楽しいと、自分ももっと楽しくなるね。</p>

・近所のおばあちゃんにあいさつすると喜んでくれるかな。  
●小さい子やお年寄りを思いやる気持ちをもって自分ができることは何かを考え、実践しようとする気持ちがあったか。

心のノート（学級活動） 11月11日  
「ともだちといっしょ」 P40～42  
○生活の中で、友達っていいな、すてきだなと思ったことを見つけて、友達を増やしていこう。  
・友達と一緒にだと楽しいし、がんばれるね。  
・友達が励ましてくれて元気がでたよ。  
・みんなで力を合わせるといろんなことができる。  
・友達と一緒にできることがほかにもあるかな。  
・これからも、友達と助け合ってがんばろう。  
●友達よさや大切さについて考え、仲よく助け合っているようにする意欲をもつことができたか。

資料名 「二わのことり」（道徳）  
11月18日（1組本時）・14日  
○友達と互いに思いやりをもって仲よくし、助け合っていこう。  
・みそさざいさんが迷った気持ちはよくわかるよ。  
・友達のことを考えて行動できてえらいな。  
・みそさざいさんのように友達の気持ちを考えることは大切なことなんだね。  
・友達が喜んでくれると自分もうれしくなるね。  
・みんなと仲よく助け合っていきたいな。  
●友達と仲よく助け合って生活していこうとする意欲をもつことができたか。

資料名 「しあわせのおうじ」（道徳）  
11月22日・18日（2組本時）  
○相手を思いやる気持ちや、友達や身近な人に温かく接することの大切さに気付き、自分にできる親切をしていこう。  
・王子もつばめも、自分の命よりも町の人々のことを考えていてすごいな。  
・はくの中の心にも王子やつばめのような心があるのかな。  
・友達の気持ちを考えたらやさしくなれるのかな。  
・困っている友達がいたら、自分にできることをしていききたいな。  
・友達にやさしく親切にしていこう。  
●人を思いやる心の美しさにふれ、自分にできる親切な行いをしていこうとする意欲を高めることができたか。

心のノート（昼の活動） 11月22日  
「あいてのころをかんじよう」 P48・49  
○自分の回りのいろいろな人たちの気持ちを考えて、様々な人とかかわっていこう。  
・はくたちの身近にはいろいろな人がいるんだね。  
・みんなどんな気持ちでいるのかな。  
・相手のことを考えるとやさしい気持ちになるね。  
・思いやりの心をもって回りの人と接していこう。  
●身の回りのいろいろな人たちと、互いに思いやりの心をもって接していくことの大切さを、より深く感じる事ができたか。

・次は小さい子にやさしくしよう。  
●遊びのきまりを守り、友達と楽しく遊ぶことができたか。

「あきのこうえんへいっしょにいこう」（生活科）11月中旬  
○幼稚園の子を思いやる気持ちをもって、一緒に楽しく秋の公園で遊ぶことができる。  
・一緒にどんぐりを拾おうよ。  
・はくがとったのをあげるよ。  
・こんなところに秋を見つけたよ。教えてあげよう。  
・一緒に遊ぶと楽しいね。  
●幼稚園の子に親切にし、一緒に楽しく秋の公園で遊ぶことができたか。

●秋の自然とのかかわり方を考え、秋の自然を利用して工夫して遊んだり、友達や身近な人と一緒に楽しく遊んだりできたか。

ほかほかの木（常時の活動）  
○温かい気持ちを友達に伝えよう。  
・保健室に連れて行って来てくれてうれしかったよ。  
・落としたえんぴつを拾ってくれてありがとう。  
・喜んでくれてよかったな。これからも友達に親切にしていこう。

「みんなでたのしもう」（生活科）  
○昔からのおもちゃや身の回りの物でつくるおもちゃを使い、遊び方やルールを工夫して、楽しく遊ぶことができる。

「ようこそむかしランドへ」（生活科）12月上旬  
○おじいちゃん、おばあちゃんと楽しく遊ぼう。  
・昔のおもちゃで楽しもう。  
・おじいちゃんほこままわしの名人だね。  
・他にも昔の遊びはおばあちゃんがよく知っているよ。教えてもらおう。  
・おじいちゃんたちは何でもよく知っていてすごいな。  
・一緒に遊べて楽しかったよ。  
・おばあちゃん、ありがとう。また、教えてください。  
●お年寄りとかかわって、楽しく遊ぶことができたか。

●昔からの遊びや身の回りの物でつくるおもちゃの遊び方やルールを工夫しながら、友達や身近な人と楽しく遊ぶことができたか。

(1) 主 題 名 きて よかった

(2) 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

2-(3)	友達と仲よくし、助け合う。
-------	---------------

楽しい学校生活を送るためには、友達とよりよい関係が結ばれていなければならない。よりよい関係を結ぶには、互いの信頼関係を築くことが大切である。そのためには、まず、相手を認め、相手の立場に立って考える、思いやりの心がなくてはならない。日常の学習活動や生活の様々な場面を通して、相手を思いやる気持ちを持ち、助け合ったり協力し合ったりし、信頼感や友情を育てていくことが大事である。

1年生の段階においては、特に身近にいる友達と仲よく活動できるようにすることや相手の気持ちを考えて思いやり、困っている友達がいるときは助けようとする気持ちや態度を養うことが大切である。また、相手が喜ぶ様子を見て、共に喜びを味わうような心情を育てていくことも大切だと考える。

〈子どもの実態〉

子どもたちは、学校生活にもすっかり慣れ、交友関係も広がり、友達付き合いも少しずつ深まってきている。学習活動や遊びも活発になってきて友達同士のかかわりも多様になり、仲のよい友達も多くなっている。困っている友達を見ると「どうしたの。」と積極的に手助けをしようとする。友達に優しくありたいという願望も強く、また、そうすることはよいことだと思っている。しかし、反面、自己中心的な考え方からけんかや口論が起こる場合もあり、一見仲よくしているように見えても、力関係がはっきりしていて相手に逆らわないで言うままになっているという場面もよく見られる。

そこで、互いに相手のことを考え、心から相手の気持ちを思いやり、仲よく助け合うことの大切さに気付かせたい。そして、互いに助け合うことのすがすがしさを実感させ、友達と仲よく助け合おうとする態度を養いたい。

〈資料について〉 二わのことり (県副読本)

みそさざいは、やまがらの誕生日の招待を受けながら、うぐいすの家での音楽の稽古の方へ来てしまう。みそさざいにとっては、やまがらもうぐいすも友達であるが、さびしく待っているであろうやまがらを思い、うぐいすの家をこっそり抜け出してやまがらの家へ行く、という内容である。子どもにみそさざいの心の葛藤に共感させながら、みそさざいの友達を思う気持ちを深く考えさせることにより、ねらいに迫りたい。また、やまがらの心から喜ぶ気持ちやみそさざいの「きてよかった。」という気持ちについても考えさせ、普段の自分たちの生活を振り返りながら、相手の気持ちを考え、仲よくしていくことの大切さに気付かせたい。そして、友達と仲よく協力し、助け合って生活していこうとする意欲を高めていきたい。

(3) ね ら い

友達と互いに思いやりをもって仲よくし、助け合おうとする態度を養う。

学 習 活 動	主な発問と予想される子どもの意識	指導上の留意点と評価
1 写真を見て、友達と楽しく活動できたときのことを発表する。	○ これは何をしているときですか。また、このときはどんな気持ちでしたか。 ・みんなで秋の公園に行ったよ。幼稚園の子と一緒に楽しく遊べておもしろかったね。	□体験活動の写真を提示しながら、ねらいとする価値への方向付けをする。
2 資料「二わのこり」を読み、みそさざいややまがらの気持ちについて話し合う。  ・みそさざいがうぐいすの家へ行ったときの気持ち  ・みそさざいがうぐいすの家にいるときの気持ち  ・みそさざいが来てくれたときのやまがらの気持ち  ・やまがらが涙を流して喜んでくれたときのみそさざいの気持ち	○ どんなお話だったでしょう。みそさざいの気持ちを考えながら、紙芝居を聞きましょう。  ○ みそさざいがうぐいすのうちにいこうか、やまがらのうちにいこうか迷ったとき、どんな気持ちだったでしょう。 ・やまがらくん待っているだろうなあ。でも山奥のさびしいところだからいやだなあ。 ・みんなうぐいすの方へ行くのだから。 ・明るくて楽しいうぐいすのうちにいこう。  ○ うぐいすのうちにいるみそさざいは、どんなことを考えていたでしょう。 ・やっぱりこっちが楽しそうだ。 ・最初は楽しかったけど、やまがらのことも気になるなあ。 ・うぐいすもやまがらも友達だ。 ・うぐいすには友達がたくさんいるから。 ・やまがらはひとりできつとさびしいだろう。 ・来てくれるのを待っているに違いない。 ・みんな楽しんでるからそつと出ていこう。  ○ みそさざいが来てくれたとき、やまがらはどんな気持ちだったでしょう。 ・よくきてくれたね。ありがとう。 ・もう誰も来てくれないのかと思っていたよ。とてもうれしいよ。 ・来てくれるのを待っていたんだ。友達っていいね。  ○ やまがらが喜んでくれて、みそさざいはどんな気持ちになったでしょう。 ・本当に、きてよかった。 ・こんなに喜んでくれて、ほくもううれしい。 ・さあ一緒に、誕生日のお祝いしよう。	□紙芝居を読み聞かせ、話の内容を確認させる。  □迷いながらも魅力あるうぐいすの家へ行ったみそさざいの気持ちに共感させる。  □うぐいすの所が楽しいと思う気持ちとやまがらのことを気にしている気持ちの葛藤劇をさせ、やまがらの気持ちを思いやるみそさざいに共感させる。  ●相手を思いやる心の大切さに気付くことができたか。(発言)  □一人ぼっちだったときのやまがらのさびしさにも触れ、心から喜んでることをとらえさせる。  □友達を思いやった結果としての喜びに共感させる。 ●思いやりの心もち、仲よく助け合うことの大切さが理解できたか。(発言)
3 自分の生活について振り返る。	○ みなさんは、みそさざいのように、友達の気持ちを考えたり、仲よく助け合ったりしてよかったなあと思ったことはありますか。 ・けがをして泣いている友達を保健室まで送っていったよ。 ・給食の時、おかずをこぼした友達のお手伝いができてよかったな。 ・色鉛筆を忘れてきた友達と一緒に使ったよ。「ありがとう。」と言ってくれてうれしかった。 ・運動会するとき、みんなと一緒に力を合わせてがんばれて楽しかったよ。	□具体的な体験を思い起こさせ、その時の気持ちも発表させる。  ●学習したことから生活を振り返り、友達と仲よく助け合って生活していこうという意欲がもてたか。(発言)
4 教師の話聞く。	○ 先生が子どものときの話をします。	□教師の経験談を話し、実践意欲を高めるようにする。

## (1) 主題名 あいてをおもうころ

## (2) 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

2-(2)	身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。
-------	-----------------------------

わたしたちが生活していく中で、よりよい人間関係を築いていくには、思いやりが不可欠である。人は、困っている人を見れば何とか力になりたいと思うし、相手が幼い人や高齢者であればできるだけ手を差し伸べていきたいと思う。これは、相手の置かれている状況を自分に置き換え、どんな気持ちでいるのか、何を望んでいるのかと相手の身になって考え、その苦しみを自分のこととして受け止める共感や一体感が根底となっている。そして、この思いやりの気持ちに基づいて行われる励ましや援助などの具体的な行為が親切である。よって、親切というのは、あくまでも対等の立場に立って、相手を自分と同じようかけがえのない存在として認め、自分はいろいろな人と、互いに支え合いながら生きているという自覚に基づいた行為であるといえる。

1年生の子どもたちの指導においては、その人間関係の広がりや発達段階から、まず、身近な人に対して温かい心で接し、親切にしようとする気持ちを育てることが大切である。特に、友達や身近な幼い人や高齢者に対して、相手の立場や気持ちをよく考え親切にできる力をつけていきたい。

## 〈子どもの実態〉

子どもたちは、学校生活に慣れ交友関係も広がり、困っている友達がいれば一緒に考えたり手助けをしたりするなど、身近な人とのつながりを大切にしながら生活しようとする心が育ってきている。また、友達と協力しながら助け合って活動する楽しさも感じ始めている。しかし、真に相手の立場や気持ちを考えて行動することは難しく、自己中心的な感じ方・考え方から、自分と親しい友達や自分によくしてくれる相手にだけ親切にするという傾向も見られる。人から親切にされることには慣れていても、体験不足のため、人に親切にすることには戸惑いを感じる子もいる。

そこで、このような子どもたちに、優越感や自己満足からくる親切ではなく、だれに対しても相手の立場に立った親切が大切であることに気付かせていきたい。そして、相手を思いやる心は、自分ももっているということを自覚させ、その心を大切に育てさせたい。また、自分が親切にされたり親切にできたりした体験を思い起こし、親切にすることは、自分も相手も温かい気持ちになることを実感させ、友達だけでなく幼い人や高齢者に対しても、思いやりのある言動をしようとする意欲を高めていきたい。

## 〈資料について〉 しあわせの王子（光文書院2年）

他人の苦しみを自分のこととして受け止め、我が身を顧みず、自分の体の宝石や金箔を次々に貧しい人々に分け与え、ついにはみすぼらしい姿になってしまう王子。王子の限りない優しさ、心の気高さに胸を打たれ、献身的な愛情で王子と運命をともにするつばめ。両者の温かく深い愛情の姿、清らかな心は、子どもたちが本来もっている素朴でみずみずしい感性に訴え、子どもたちにかげがえのない感動を与えてくれるであろう。

本資料では、物語の世界に十分浸らせるとともに、話し合いや役割演技を通して、人を思いやる心の美しさ、親切にすることから得られる心の幸せを感じ取らせたい。そして、これからの生活において、相手を思いやり、自分にできる精一杯の親切をしていこうとする意欲を培いたい。

## (3) ねらい

相手を思いやる大切さに気づき、友達や身近な人に温かい心で接し、親切にしていこうとする意欲を高める。

学 習 活 動	主な発問と予想される子どもの意識	指導上の留意点と評価
1 「しあわせのおうじ」の場面絵を見て、王子のイメージについて話し合う。	○ この絵の王子様の銅像を見て、みなさんはどう思いますか。 ・体が、宝石や金でできているなんてすごい。 ・体が輝いていてきれいだから、幸せなのかな。 ・町の宝物かもしれない。	□町の広場にそびえ立つ王子の銅像の場面絵を提示し、王子のイメージを話し合うことにより、資料への関心を高める。
2 資料「しあわせのおうじ」を読み、つばめの気持ちを中心に話し合う。  ・病気の男の子にルビーを届けて欲しいと頼まれたときのつばめの気持ち  ・左目のサファイアを届けて欲しいと頼まれたときのつばめの気持ち  ・王子のそばで暮らそうと言ったつばめの気持ち	○ お話を聞いて、王子やつばめについて思ったこととお話しましょう。 ・自分の体の宝石をあげて、困っている人を助けた王子は、やさしいな。 ・王子の手伝いをしたつばめも、心がきれいだ。 ・死んでしまって王子もつばめもかわいそうだ。  ○ 気の毒な親子にルビーを届けて欲しいと頼まれたつばめは、どう思ったのでしょうか。 ・病気の男の子とお母さんはかわいそうだ。 ・早く南の国に帰らないといけなければ、一度だけ王子の頼みを聞こう。  ○ マッチ売りの女の子に、左目のサファイアを届けて欲しいという王子の言葉を聞いたつばめは、どんな気持ちだったでしょう。  〈届ける〉 ・自分の目が見えなくなっても、かわいそうな女の子を助けたいという王子は、何てやさしいのだろう。 ・ほくが、王子の願いを叶えよう。  〈届けない〉 ・そんなことをしたら王子の目が見えなくなってしまう。 ・今日こそ南の国へ帰らなければ、ばくは死んでしまう。  ○ つばめは、どんな気持ちで「あなたのそばで暮らしましょう。」と言ったのでしょうか。 ・目が見えなくなった王子様を、ひとりぼっちにして帰れない。 ・これからは、ほくが王子様の目の代わりをするんだ。そして、町の困っている人を見つけるよ。 ・これからもずっと、王子様の手伝いをしたい。 ・親切な王子様、ほくも、あなたのようなやさしい心をもちたい。	□資料の雰囲気を大切にしながら語り聞かせをする。  □最初の自分の感じ方や考え方を素直に表現させる。  □貧しくて薬も買えない親子を助けようと、一心につばめに頼む王子の優しい気持ちに気付けるよう補助発問をする。  □サファイアを届けると決めるまでのつばめの気持ちを、葛藤劇をすることにより、共感的にとらえさせる。  ●自分のことよりも相手を思いやる王子の気高い心にふれ、宝石を届ける決心をしたつばめの思いに気付くことができたか。(発言)  □南の国へ帰りたくて描られていたつばめが、自分から王子のそばに残る決心をした気持ちを、つばめの思いに寄り添って考えさせる。  ●王子とともに、人を思いやる生き方をするに、生きる喜びを見出したつばめの思いを感じ取ることができたか。(発言)
3 自分の生活を振り返る。	○ 王子やつばめのように、一生懸命に相手のことを思って、何かをしたことがありますか。 ・こんなすごいことは、わたしにはできないな。 ・ほくの心の中にも、王子やつばめのような心があるのかな。 ・友達のことを考えたら、王子やつばめのようにやさしくなれるのかな。 ・転んでけがをした友達を保健室に連れて行ってあげたら、ありがとうと言ってくれたよ。 ・幼稚園のお友達と公園で遊ぶとき、喜んでくれるようにやさしくしたいと思ったよ。 ・困っている友達がいたら、わたしにできることをしていきたいな。	□自分自身と、王子やつばめの行為に隔たりを感じている子には、人には、何とかして相手を助けようとする親切な心があることを話し、希望を抱かせる。  ●人を思いやる心の美しさにふれ、自分にできる親切な行いをしたいこうとする意欲がもてたか。(発言・観察)
4 教師の話を聞く。	○ 「先生がずっと大好きだったこのお話で、みなさんと考えることができて、本当に嬉しく思いました……。」	□感動の余韻を心に残すことができるよう、言葉がけをする。

